

看護学部
NISHIDA Atsuko
<span></span>
PROFILE
職名
看護学部 看護学科教授
学歴
奈良女子大学大学院人間文化研究科社会生活環境学専攻博士後期課程修了（2010）
学位
博士（社会科学）(奈良女子大学、2010)
所属学会
日本公衆衛生学会、日本保健医療行動科学会、日本難病看護学会、日本地域看護学会、日本保健医療社会学会、日本看護科学学会、日本社会学会、関西社会学会、エスノメソドロジー・会話分析研究会、日本高齢者虐待防止学会、日本労働社会学会、日本家政学会、日本家族社会学会、日本老年社会学会
専門分野
地域看護学、社会学

## 西田 厚子

にしだ あつこ

**研究課題1●難病看護**

**研究課題2●社会老年学**

**研究課題3●地域医療**

### 業 績

**【著書】**

『わかりやすい保健・医療・福祉Ⅰ.社会福祉・社会保障』／廣川書店、2005年、共著。

『曙光』／全国膠原病友の会滋賀支部、2005年、共著。

『ナースのための地域看護概論』／ヌーヴェルヒロカワ、2005年、共著。

『三訂版 地域看護学』／中央法規出版、2005年、共著。

**【学術論文】**

「介護者を攻撃の対象とする痴呆性老人への援助―家族援助の視点から―」／『保健婦雑誌』第46巻第12号、1990年、共著。

「訪問悉皆調査による在宅高齢者のADL（日常生活動作能力）の実態」／『日本公衆衛生雑誌』第41巻第10号、1994年、共著。

「在宅難病患者のカンファレンスにおける『情報関連図』導入―チーム訪問のネットワークづくりへの効果―」／『日本難病看護学会誌』第2巻第2号、1999年、共著。

「連携の基礎的力をつける看護自主学习会の試み」／『日本難病看護学会誌』第5巻第2号、2001年、共著。

「特定疾患患者の訪問看護のあり方について―訪問看護ステーションの質調査から―」／『日本難病看護学会誌』第7巻第3号、2003年、共著。

「訪問看護ステーションの看護ケアの質評価について―「プロセス」についての自己評価から―」／『日本在宅ケア学会誌』第6巻第3号、2003年、共著。

「過疎地域における高齢者健康づくり支援―プロダクティブ・エイジングの視点から見た健康づくり 計画―」／『公衆衛生』第68巻第11号、2004年、共著。

「遠隔医療を活用した在宅神経難病患者のネットワーク強化の試み」／『日本難病看護学会誌』第9巻第2号、2004年、共著。

「定年退職移行期にある中高年のアクティブ・エイジング」／『研究・調査報告集』Vol.18、大阪ガスグループ福祉財団、2005年、共著。

「退職看護者の再就労の実態と能力活用―「団塊世代の退職後」を視野に入れて」／『ナーシング・トゥデイ』20(8)、2005年、単著。

「退職移行期にある看護者の健康と社会活動に関する実証研究―退職看護者の人材活用システムの課題―」／『人間看護学研究』3、2006年、共著。

「退職看護者再雇用システムの有効性の検討」／『人間看護学研究』3、2006年、共著。

「地区診断と健康教育指導案作成の組み合わせた教育プロラムによる学生の学び」／『人間看護学研究』3、2006年、共著。

「地区診断を考える―経験の浅い保健師が取り組む―」／『保健の科学』48(4)、2006年、単著。

「自治体定年退職者の退職後の生活と健康の関連に関する実証研究」／『人間看護学研究』4、2006年、共著。

「団塊世代を地域に迎える対応京都府亀岡市における『退職男性の健康づくり教室』

の経過と成果」／『保健師ジャーナル』63(2)、2007年、共著。

「団塊世代に向けた保健活動のあり方」／『保健師ジャーナル』63(2)、2007年、単著。

「イギリスにおける退職ボランティア活動」／『人間看護学研究』5、2007年、共著。

「地域看護論演習におけるロールプレイの評価」／『人間看護学研究』6、2008年、共著。

「インフォーマルな事例検討会―難病ケアに関する事例検討会の実践」／『保健師ジャーナル』65(3)、2009年、単著。
「笑いによる会話の協同的達成―在宅ALS患者と看護学生のやりとりから―」／『エスノメソドロジーによる探求―ALS、写真、鍼灸―』、徳島大学総合科学部社会科学講座、2009年、共著。

「定年退職とアイデンティティの危機―「定年宿」モデルの提案―」／『労働社会学研究』11、2010年、単著。

「戦後日本における『定年退職』をめぐる言説の変遷―書籍（1951-2005年）の分析を通して―」／『奈良女子大学社会学論集』17、2010年、単著。

「定年退職者研究再考―定年退職者差別とアイデンティティの危機の観点から―」／『奈良女子大学社会学論集』18、2011年、単著。

**【国際学会発表】**

「The Efficacy of the Health Plan for the Elderly in a Depopulated Area」／The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research、2005年10月（東京）、共同。

**【科学研究費補助金、外部研究資金活用】**

『地域保健活動を発展させる市町村・保健所の保健師組織体制のあり方に関する研究』平成12年度～平成13年度科学研究費補助金基盤(C)(2)研究成果報告書、2002年、共著。

「過疎地域における『老い』の意味」／『「流域論」現代的なネットワークにもとづく流域社会の再構築についての考察』／平成11年度～平成13年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、2002年、共著。

「難病を病む妻と介護する夫の語りと共同体の持つ意味」／『ダム建設問題における専門職者の役割分析』平成15年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書 2006年5月、共著。

「神経難病患者の自己決定とQOL向上を目指した看護職の介入方法・システム構築の確立」／基盤研究C／平成15年度～17年度

「退職者のアクティビティ測定尺度と地域活動参加促進のためのプログラム開発」基盤研究C／平成18年度～20年度

「退職移行期にある中高年層の社会的アイデンティティ再構築過程に関する研究」／基盤研究C／平成18年度～20年度

「在宅認知症高齢者介護家族に対する家族類型別高齢者虐待早期介入プログラム開発」／基盤研究C／平成19年度～21年度

「滋賀県における難病患者在宅療養支援計画策定・評価事業のあり方に関する研究」／滋賀県平成12年度受託研究／平成12年度

「訪問看護ステーションにおける訪問看護の質に関する調査研究」／平成13年度大阪ガスグループ福祉助成による研究・調査／平成13年度

「在宅医療に携わる看護職員に関する調査研究」／平成13年度滋賀県在宅医療調査委託事業／平成13年度

「地域難病療養者支援活動における保健所保健師の役割の明確化に関する研究」／京都府平成15年度保健福祉環境等調査研究事業／平成15年度

「定年退職者の生活構造の変化や社会活動変化が健康状態に及ぼす影響」／大同生命第10回（平成15年度）「地域保健福祉研究助成」／平成15年度

「定年退職移行期にある中高年のアクティブ・エイジングに関する実証研究」／平成15年度大阪ガスグループ福祉助成による研究・調査／平成16年度

「退職移行期にある中高年者のアクティブ・エイジングと健康との関連に関する実証的研究」／明治生命厚生事業団第20回健康医学科学研究助成／平成16年度

「退職看護者の職域拡大と能力活用システム開発に関する研究」／日本看護協会出版会研究助成による研究助成／平成16年度